



ろうさい連携だより

2010.11

第 6 号

病院の理念

満足と納得が得られる医療の実践

基本方針

- 1 患者さんの安全と安心を第一に考える医療を提供します
- 2 患者さんの権利を尊重し、思いやりのある医療を実践します
- 3 科学的根拠に基づく質の高い医療を提供します
- 4 地域の方々と勤労者の健康管理を支援します



中尊寺にて（撮影：診療放射線技師 晴山良紀）

目次

- p1 診療の現場から ●がん患者の治癒・延命とQOL向上のために
- p3 診療科の紹介 ●歯科外来
- p4 Topics ●市民医学講座
●旭ヶ丘市民センター祭り
- p4 お知らせ
- p4 地域連携室から

がん患者の治療・延命と QOL 向上のために

腫瘍内科部長 丹田 滋

治療の進歩によって、がんは根治や長期生存が見込めるようになり、長期経過を見ながらコントロールしていく慢性疾患ともなっている。

患者ができるだけ普通の生活を維持しながら治療を続けられるよう、かかりつけ医がフォローアップするために、最新のがん化学療法を中心にした腫瘍内科の知見をお届けする。

これは私の作文ではない。最近の一般医家向け雑誌の一節である(メディカル朝日、2010年10月号 p.15)。「がんは慢性疾患」との記載はもちろん、「腫瘍内科」という表現が当然のようになされていることは興味深い。

がんの薬物療法には、①手術療法・放射線療法などと組み合わせて、あるいは薬物療法単独でがんの治療を目指す場合(乳がんの術前・術後補助療法、びまん性大細胞B型悪性リンパ腫の治療、最近では肝転移巣を切除可能となるまで縮小する大腸がんのconversion therapyなど)、②治療は見込めず延命あるいは症状緩和を目的とした(広義の)緩和的薬物療法の二種があり、個々の患者さんでそのどちらが目的になっているかを患者・家族・医療者が共通理解すべきである。①では、治療計画(レジメ)ごとに多くは予定回数が定められ、それが終了すると無治療・経過観察あるいは外科手術となるが、②では治療効果があり(少なくとも腫瘍増殖が認容できる範囲内で押さえられており)患者への負担(最近では自覚的・他覚的だけでなく経済的負担 financial toxicityも問題となる)が許容されるならば、その治療が継続されていくのが原則である。以上の基礎知識を前提に昨今のがん診療での3つのキーワードを解説し当院での現状を報告していきたい。

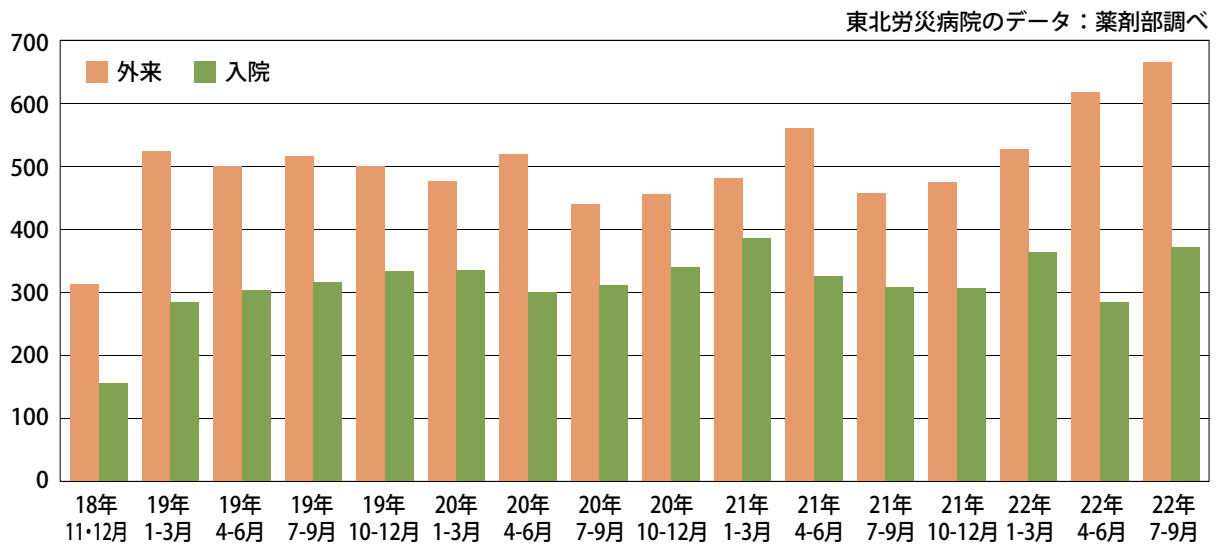
キーワード#1 外来化学療法

かつてはがんの薬物療法(抗がん剤治療)というと、嘔気・嘔吐や骨髄抑制(感染症予防)のために長期の、時には数ヶ月の入院で施行されることが当然であった。近年、こうした副作用への対策(支持療法)が発達

し、また抗がん剤の投与スケジュールや投与方法が改良されている。たとえば大腸がんに頻用されるレジメで5FUの46時間持続投与が必要な場合には中心静脈カテーテルを皮下に留置して「バルーン」と呼ばれる風船型小型容器に5FU高濃度溶液が薬剤部に無菌的に注入され外来化学療法センター(以下、センター)で投与開始し、投与終了時には患者あるいはご家族に抜針を行っていただくことにより、場合によっては通常の就労をしながら今までと同等以上の効果がある治療を入院せず継続できるようになっている。

当院のセンターは平成16年9月に開設された。図に近年の当院での注射抗がん剤調剤件数の推移を示すが、入院は①注射抗がん剤治療導入時の一泊化学療法、②補液など特殊・長時間の処置を必要とするもの、③全身状態不良、本人・家族の希望による入院、④臨床治験などの特殊例に限られており(毎月100件前後で推移)、徐々に外来治療例が増加していることがわかる。また新規制吐薬や固形がん認可された抗がん剤は(分子標的薬剤も含めて)ほぼ遅滞なく使用できるように(化学療法部会と薬事委員会の審議を経て)当院で採用されてきた。こうした実施件数の増加や使用レジメの複雑化・長時間化に対して、センターのスタッフやベッドの数はほとんど増加していないので患者のセンター待合室での待ち時間が必然的に長くなり、予約状況によってはやむなくレジメ上の最適予定日からずらした日に予約を患者にお願いするなど、ご迷惑をおかけしているのが現状である。なお、当院では肺がんは呼吸器科、泌尿器科がんは泌尿器科、消化器がんの一部は消化器科・外科で化学療法も担当している(当科は消化器がん、乳がん、悪性リンパ腫を主な守備範囲としている)。

3ヶ月毎の抗がん剤調整件数



キーワード#2 早期からの緩和ケア

WHOによる緩和ケアの定義の変更(2002年)やがん対策基本法(平成19年4月施行)第16条で「疼痛等の緩和を目的とする医療が早期から適切に」と定められたことから、がん診療の早期から緩和ケア(疼痛など身体的苦痛のみならず、心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛＝トータルペインへの対策)が求められ、また近年では患者・家族のみならず一般市民の関心も高い(日本緩和医療学会をはじめとした諸団体によるオレシバールンプロジェクトの効果もある)。

緩和ケア、特に終末期患者を対象としたターミナルケアについては、宮城県立がんセンター緩和医療科へ移動された小笠原鉄郎消化器科部長(当時)が国内でも草分けの一人であり、その麾下の病棟スタッフは緩和ケアに熟達していた。これらを背景に当院では平成19年度から入院がん患者を対象とした緩和ケアチーム、21年度から緩和ケア病床、緩和ケア外来を立ち上げた。こうした活動を詳述する紙面の余裕はないが、当科では初診時(その多くは進行がん患者である)から、がん性疼痛をはじめとした症状対策には配慮するように努力している。また、どの科の患者であってもセンター利用時に看護スタッフやセンター担当の腫瘍内科医がバイタルサインのみならず苦痛・要望を拾い上げ、必要があれば担当医に連絡している。

キーワード#3 五大がんあるいは病診連携

がん対策基本法に基づき、がん対策推進基本計画が策定・閣議決定された(平成19年6月)。同計画で国内の患者数が多く、重点的に対策(特に5年以内に地域連携クリティカルパスの整備)を講じるべきがんとして、肺がん・胃がん・肝がん・大腸がん・乳がん(同計画に記載順)が「5大がん」とされた。

本来ならば、少なくともこの五がん種については、すでに登録医の先生方をはじめとした各種医療機関と連携クリティカルパスの運用が始まっていて当然であるが、当院を含めた宮城県内のがん診療連携拠点病院の団体(宮城県がん診療連携協議会)の地域連携パス部会で県内統一のパスを作成中であり、当院の作業もそれと足並みを合わせる形で遅延している。各がん種ともステージⅠ患者の初期治療後の経過観察・定期検査をかかりつけ医の先生にお願いする形になると聞けるが、パスの作成・試験運用が終了次第、当院でも病診連携委員会あるいは地域医療連携室を通して登録医の先生方に依頼いたしますので、その際はぜひご協力をお願いいたします。

以上、駆け足でしたが当院腫瘍内科の(知見ではなく)現状をお伝えしました。ご要望やご不明の点は当科までなんなりとお問い合わせ下さい。

診療科の紹介

歯科外来

歯科部長 塚田 甲



日頃から病診連携で大変お世話になっております先生方に、今回は歯科の診療につきましてご紹介いたします。

外来診療体制

歯科外来は、月曜日から金曜日まで午前、午後とも診療しています。常勤歯科医1名（塚田）、歯科衛生士2名（桜井、佐藤）の体制で対応しています。また、毎週火曜日と木曜日の午後は、口腔外科の診療を東北大学病院口腔外科から

の2名の非常勤歯科医（君塚、樋口）が担当しております。
外来新患および再来は完全予約制です。

診療内容

一般の歯科疾患（う蝕、歯周病、義歯）の治療および口腔外科領域の治療を行っています。口腔外科領域で診療している疾患は、抜歯、埋伏歯の抜歯、顎関節症、歯根嚢胞、口腔粘膜疾患などです。悪性腫瘍については東北大学病院に依頼いたします。迅速に対応できる体制となっています。また、耳鼻咽喉科領域に及ぶ疾患（上顎洞炎など）につい

ては、耳鼻咽喉科と密接に連携を取り対応しています。

当科はストレッチャー、車椅子での診療も可能です。入院中外来まで来られない患者様には病室への往診も行っています。また、ウイルス性肝炎など感染症に罹患している患者様の歯科治療にも十分な対策を施しています。

診療科の特色

近年、歯周病が全身疾患の憎悪因子になっているという研究結果が報告されていることから、当科でも他診療科の医師と密接な連携をとり口腔ケアや歯周病の治療に積極的に取り組んでいます。糖尿病で入院されている患者様には、糖尿病教室で糖尿病と歯科疾患の関わりについての講話と希望者には歯周病検査をしています。

また、これからがん化学療法や放射線治療を受けられる患者様、すでにかん治療を開始されている患者様はできるだけ歯科に紹介していただき、口内炎などの口腔合併症を

軽減するための口腔ケアや歯科治療も精力的に行っています。口腔内の不快事象を少なくして患者様のQOLの向上に少しでもお役に立てばと思っています。

さらに、予防医療の一環として、当院の人間ドッグで歯科検診も行っています。

特殊治療について

歯列矯正治療、歯科インプラント治療はしておりませんが、それぞれの治療についての相談や専門歯科医への紹介をしています。

メンバー紹介



部長 塚田（中央）・桜井（左後）・佐藤（右後）

市民医学講座

平成22年8月19日(木) 仙台市医師会館

徳村副院長が講師となり、腹腔鏡下手術をテーマとする講演会が行われました。

「内視鏡外科手術の進歩―胆石から胃痛まで―」と題し、胆のう除去術や胃がんの摘出手術の概要をビデオを用いて解説しました。近年の画像や器具の進歩で、より安全、確実に手術ができるようになったこと等が語られ、市民の方々およそ100名の参加がありました。



旭ヶ丘市民センター祭り

平成22年10月16日,17日 旭ヶ丘市民センター

恒例の旭ヶ丘市民センター祭りに健康相談を行いました。

血圧や体脂肪の測定コーナーには次々と利用者が集まり、特に骨密度測定の人気が高かったようです。

お知らせ

東北労災病院 第5回 市民講座

日時 平成22年12月4日(土)午後1時～

場所 東北労災病院 1階ロビー

講師 当院 泌尿器科部長 浪間孝重「困っていませんか？夜中のトイレ」
当院 皮膚排泄ケア認定看護師 岡崎佳子「やってみよう 骨盤底筋体操」

どうぞお気軽にご参加ください。

地域医療連携室から

◆平成22年度第1回地域医療支援病院運営委員会が開催されました

10月27日(水)、当院会議室で持たれた会には、仙台市医師会長、仙台市医師会副会長、仙台歯科医師会長、仙台歯科医師会理事、仙台市保健衛生部長、青葉区保健所長からなる外部委員の先生方をお迎えしました。

地域に根ざす医療機関を構築するため、活動実績の報告や、当院へのご意見を伺うことを目的に、年に2回話し合いが持たれています。

地域支援病院と認定されて一年が経ちました。これからより一層地域医療に貢献できるよう努力いたします。

◆病診連携サービス実態調査を行いました

平成21年9月から平成22年8月に患者さんをご紹介頂いた先生方を当方で任意に抽出させて頂き、調査表をお送りしました。ご協力くださいました先生方に感謝申し上げます。

お答え頂きました調査の結果は、後日連携だよりでご報告いたします。

◆リハビリテーション科の受診について(お願い)

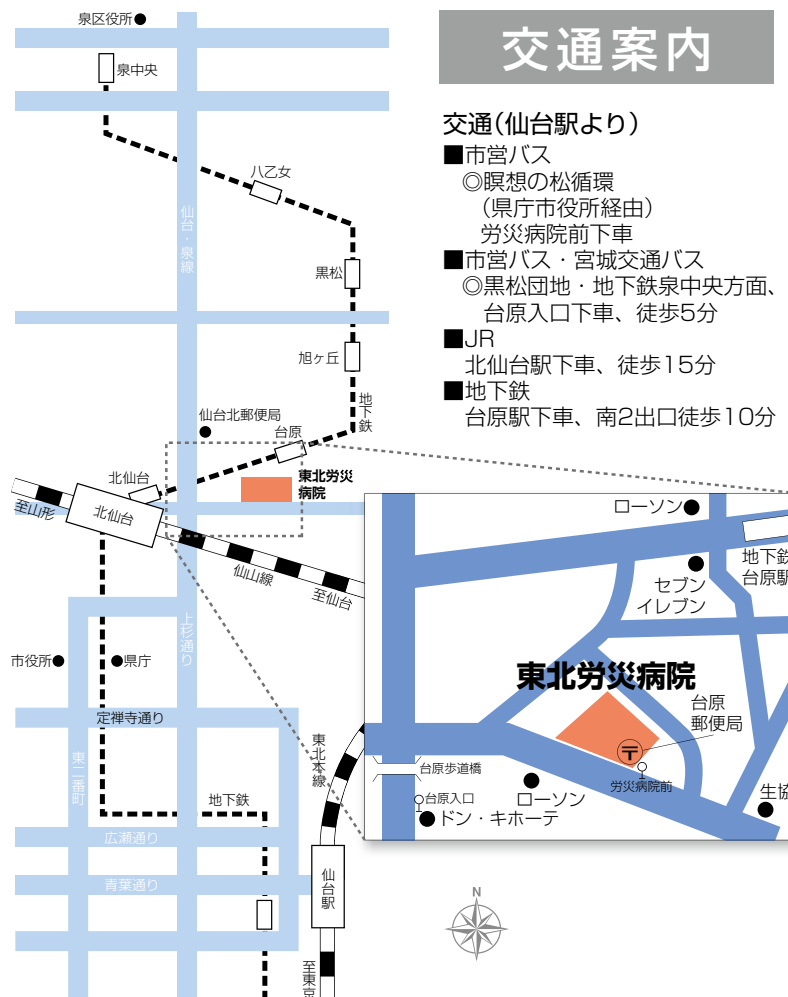
平成22年12月、白木原医師の退職に伴い、受診のご希望にお応えできない場合があります。

ご紹介の際は事前にリハビリテーション科 原田部長に午後2時～4時の間にお電話くださいますようお願いいたします。

病院代表 022-275-1111 内線(3500)

◆月別紹介患者数

	紹介患者数(人)	逆紹介患者数(人)
平成22年8月	1,022	724
平成22年9月	991	634



独立行政法人 労働者健康福祉機構 **東北労災病院**

〒981-8563 仙台市青葉区台原4-3-21

TEL.022-275-1111(代表) FAX.022-275-4431

ホームページ <http://www.tohokuh.rofuku.go.jp>

地域医療連携室

TEL.022-275-1467(直通) FAX.0120-772-061